

関係者各位

平成 22 年 3 月 3 日
特定非営利活動法人北九州青年みらい塾
代表理事 大内田 佳介

「～みらい塾まちづくりプロジェクト～北九州まちづくりサロン（Vol.1）」の開催について （報告）

平成 22 年 2 月 18 日（木）「～みらい塾まちづくりプロジェクト～北九州まちづくりサロン（vol.1）」（主催：NPO 法人北九州青年みらい塾、共催：北九州市にぎわいづくり懇話会）（19:00～21:30）を開催いたしました。

おかげさまで、定員の 60 名の方々にご参加いただき、サロンの第一部では、特定非営利活動法人ハットウ・オンパク代表理事の鶴田浩一郎氏による「まちをゲンキにする着地型観光とは？...地域資源活用型の活性化手法」というテーマによる講演、第二部ではサロンの参加者同士が議論を行うグループワークを開催しました。【サロンの状況は以下写真参照】

北九州青年みらい塾では「北九州ナイトツアー」事業を行っており、まちのにぎわいづくり（経済の活性化）に貢献するため、多くの方々に北九州市（小倉都心部）を訪れていただくためにマップの作成や体験型まち歩きを開催し、「北九州の夜のまちの楽しみ方」を提案しています。この事業は「着地型観光（既存の観光資源を用いて、地域がプロデュースする体験・交流・学習型観光）」の 1 つのスタイルを目指しております。

そこで、第 1 回目の今回は、「着地型観光」をテーマに、ナイトツアー以外にも「着地型観光の 1 つのスタイルとなりうるものが、この北九州市に眠っているのではないか？」という観点から、多くの方々とともに、「このまちの可能性」について考えたいと思い、サロンを開催しました。

また、参加者のアンケート調査を行った結果、「グループワークの時間が短く、もう少し議論したかった」など、好評でした。

来年度もサロンを開催し、「多くの方々が交流し、まちについて語り合う場」を提供できればと思います。

皆様の温かいご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

サロンの概要

（1）第一部：講演（19：10～20：10）

テーマ：「まちをゲンキにする着地型観光とは？...地域資源活用型の活性化手法」

講師：特定非営利活動法人ハットウ・オンパク代表理事 鶴田浩一郎氏

講演概要

<オンパクについて>

・オンパクは、今、北は函館から南は奄美大島まで 11 箇所で行っている。

<小倉都心部を歩いてみての感想>

・（小倉駅から会場（商工貿易会館）まで、みらい塾の代表と事務局長に案内していただいた。）歩いてみたら、街の中に古いものも残っていて、20～30 万人規模の都市として、コンパクトに街が構成されていて驚いた。コンベンションからお城まで、駅に近接している都市というのはあまりない。

<着地型観光を始めるには・・・>

・今、各都市はいかに集客交流を増やすかということをやっている。この街は食も含めてシティプロモーション

ョンができるものが揃っている。

- ・地元の人が観光交流人口を増やしたいと思っているなら、まちのことを知ること。
- ・小倉の魅力を伝えていくためには、それを語れる人がいれば、必ずまちは良くなる。
- ・地域の盛衰サイクルをみると、だいたいどこの観光地も同じことが読み取れる。別府は長いこと衰退期が続き、今は再生の途上にある。衰退期から抜け出すのに、自分のまちを知るところから始まった。市町村合併前の魅力を見直そうとした。合併後、別府は、温泉の泉質も土地の文化も全く違う8つの温泉を、ひとくくりにして全部別府温泉としていた。それを8つの温泉の魅力をきちんと伝えることから始まった。
- ・小倉で考えるなら、小倉の魅力を打ち出さないといけない。
- ・地域の盛衰サイクルでは、あるときプロモーションがうまくいき、突然人が増えるということがある。これが、観光地の生まれたての状態である。
- ・全国ブランドになるのは、ほぼマスコミのおかげ。有名女性雑誌やNHKなど。それに取り上げられたらエージェントも動き出す。
- ・その後、まちは、成熟期から衰退期に入って行く。非常に長い間をかけてまちが変わっていくため、まちの魅力をその間に忘れていく。衰退期の市民は、自分の街を「何もない」とかネガティブに言うようになっている。(温泉地でさえ、「温泉しかない」と言う。)
- ・市町村合併後、交流人口が減っているなど、自分のまちがどこに立ち位置があるのかを知ることが大事。

< 着地型観光のけん引役は・・・ >

- ・まちを牽引する人が変わってきたことも知らないといけない。旧来型(行政・観光協会・観光事業者などが)が主役だったときは、90年代まで。しかも、男性が中心。
- ・今は、元気なまちはNPOががんばっている。観光事業者だけでなく、農家をどう巻き込むのかも大事になっていて、巻き込み型組織(NPOだったり、行政だったり)が引っ張っているが、市民力が強く、楽しんでイベントをやっているのが特徴)をつくっている。
- ・また、ヨソモノ視点がまちを再生させるのに、一番必要。別府は、関東から来たNHKの記者が、路地裏を歩いて面白いといってくれたのが、再生の第一歩だった。マスコミは、取材対象として見るので、ヨソモノの視点としては、とてもいい。
- ・新たな牽引役として、女性の視点も欠かせない。圧倒的に購入の決定権を持っているのは女性。以前、旧来型、男性人中心の組織だが、その中で、「リバイバル新婚旅行」という企画商品が生まれた。新婚旅行で行った地に、再び夫婦で訪れようというもの。これは、全くマーケットに乗らなかった。女性陣が全く反応しなかった。
- ・大学生は、いいと思うとピュアでがんばるので、戦力になる。
- ・市民ぐるみで、やりたいと思う人を集めてやっていかないと、まちの再生はない。

< 着地型観光のスタートは「まち歩き」から >

- ・まち歩きは、最大の商品になる。
- ・長崎さるくを仕掛けた今の田上市長が、まだ観光課長だったとき、オンパクをするたびに10人ぐらい、長崎から連れてきて参加していた。
- ・まちづくりは、まち歩き。まち歩きには、語り部を増やすことが大事。語り部は土地に誇りを持つ。まちを歩くと、いろんなものが見つかる。古いものを利活用しようという人が出てくる。組み合わせるとまち歩きのプログラムができる。それが商品。しかし、その商品を語るには裏側を語れないといけない。なぜならまちの記憶に会いに行くことが大事だから。

< 着地型観光が成功すると・・・ >

- ・散策ガイドが増えるとまちを語りたくなる。市民が、自分のまちを悪くいわなくなるときが、衰退期から脱出したとき。

(2) 第二部：グループワーク(20:20~21:30)

グループワーク 20:10~20:40

各グループの発表 20:45~20:05

講師による講評 21:05~21:20

講師への質問 21:20~21:30

グループワークの概要

目的：交流を深め、着地型観光について考える。

議論するテーマ

テーマ	内容	担当
まち歩きツアー	北九州の特色を活かしたまち歩き キーワード(人・食・文化・店) 対象：女性	1班 6班
和菓子のイベント	シュガーロード(旧長崎街道)が通るまちにちなみ、和菓子をテーマにしたイベント キーワード(人(和菓子店主)・和菓子) 対象：若者(20代~30代)	2班 7班
食のイベント	北九州市は海山の食材が豊富であり、食をテーマにしたイベント キーワード(地元食材(ブランド)、郷土料理、ソールフード) 対象：家族連れ	3班 8班
映画のイベント or ツアー	北九州市では、市内各地に映画のロケで使われた場所があり、また作家等も多く排出しているのにちなみ、映画をテーマにしたイベント or ツアー キーワード(ロケーション、ストーリー、俳優、作家) 対象：カップル・夫婦	4班 9班
産業やまちの歴史を生かしたイベント or ツアー	北九州市は工業都市として発展してきたことにちなみ、工場や産業遺産(歴史)をテーマにしたイベント or ツアー キーワード(工場、歴史的建築物、歴史、人) 対象：中高年(一般)	5班 10班

議論の結果

テーマ	議論の内容	担当
まち歩きツアー	北九州7人の母占いツアー(北九州市は福岡市と比べて占い店が多いという実態から) パワースポット巡り(朝陽が昇り(門司)、夕陽が沈む(門司・小倉・若松)というのは珍しいのでは) 『散歩&ランチ&カフェ』(公共交通機関を使って、鹿児島本線各駅停車でいく) 開運スイーツの開発	1班
	殿様・お姫様体験【外国人対象】 (小倉はお城や市場、施設等が歩いていける距離に集約されている。外国人は、門司港等ヨーロッパの景色は見慣れているので、日本独特の街並みのほうが興味があるとのこと。)	6班

	<p>旦過市場 昭和館(時代劇鑑賞) 小倉城屋上で殿様・姫様のコスプレをし、お酒を飲む 小倉城庭園で抹茶体験 高級ホテルの庭が見える部屋で宿泊。</p>	
和菓子のイベント	<p>なつかしの味をもう一度食べたい!(小倉和菓子編小倉にはかつて沢山の和菓子屋があった。そこで、当時の職人さんを探し、あの味をもう一度作る体験プログラムを作る。)</p> <p>シュガーロードツアー(婚活ブームに便乗し、長崎街道で発展した菓子をカップルなどで巡るツアー)</p> <p>女性限定、おもてなし茶会(男性陣が和装し、女性のためだけのお茶会をする)</p> <p>ぬかみそを使ったお菓子をつくる。(旦過でお土産にできないか)</p>	2班
	<p>和菓子作りの体験があればよい。</p> <p>和菓子の食べ歩きだけでなく、その和菓子の歴史的な背景と一緒に学ぶツアーがあればよい。</p> <p>飲んだ後は和菓子でしめる、「お夜食に和菓子」はどうか。</p> <p>和菓子のテーマで市内の宿泊は難しいのではないか。</p>	7班
食のイベント	<p>焼きうどん食べ歩きツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小倉発祥とはうたっているが、地元の方も特別な知識があるわけでもなく、観光客に紹介できる店も少ない。 ・岩屋のあかもくと焼きうどんを組み合わせた新たな名品ができないか。 	3班
	<p>北九州 弾丸バスツアー</p> <p>バスツアーで北九州の名産品を食べ回る。バスの中では各地の名所、名物のいわれなど、コアな情報をきく。</p> <p>みんなでバスを降りた先で購入できるスイーツを買って、バスの車内で食べる。</p> <p>北九州をフルで味わうチケット販売</p> <p>前菜~メイン~デザート まで、5つ位の項目にチケットがわかれていて、各チケットを持って自分の食べたいと思う、登録されたお店に食べに行く。たとえばデザートチケットでは、果摘のロールケーキや足立ロールやなごしの和菓子など、いろいろなお店のいろいろな商品が登録されており、お客さんがその中の一つをチケットを使って購入。お店登録の範囲を北九州全体に広げ、今日は若松、明日は門司などなど、北九州のなかで美味しい食べ物を満喫してもらおう、食事チケットを出してはどうか?</p> <p>オプションで、農業体験、工場見学、くだもの狩りなど、いろいろなものをつける。</p>	8班
映画のイベント or ツアー	<p>映画のロケが多いといっても、それら(ロケされた映画自体)が知られているのが不明という問題点を把握しつつ、まずは追体験で、ロケ地を楽しむ。楽しみ方は、映画を見てそのシーンになりきることやスター体験をするなど。さらに、リアルタイムでロケを実体験したり、さらに進んで、その場で新しい映画が撮れる様</p>	4班

	<p>な機会を作るなど、仕掛ける側のおもてなしの心と機動力を高めてはどうか。</p>	
	<p>北九州には多くの映画ロケ地があるが、実際に映画を観ていないとロケ地を廻っても何も感じる事ができない。イベントやツアーを行う場合は、車中で該当するシーンを見てもらう等の仕掛けが必要。昭和館や前田有楽などハードを含めた北九州の映画文化を感じられるコースとする。映画だけでなく夜景などの+ を付加し宿泊に結びつける内容とする。</p>	9 班
産業やまちの歴史を生かしたイベント or ツアー	<p>新日鉄の鉱採線があるが、以前客車を引いて、西日本工業倶楽部(旧松本邸)の近くに駅があったことなどから、起業祭の時に客車付の列車を走らせ、採鉱線に乗って、新日鉄の工場を見学するツアーはおもしろいのではないかな。</p> <p>産業遺産のスポットや工場を巡る「運氣向上(工場)ツアー」と題してツアーを行えばおもしろいのではないかな。</p>	5 班
	<p>洞海湾沿いには、北九州市を代表する様々な工場が集積している。これらを、洞海湾をクルージングしつつ、海側から眺めるといふ、非日常的なツアーを提案する。また、魅力を高める要素として、ガイドは不可欠であり、さらに、当時を偲ぶランチや、角打ち体験など、食体験も組合せてはどうだろうか。</p>	10 班

イベント状況について 【H22年2月18日開催】

開会（19:00～19:10）

参加者受付状況（北九州市立商工貿易会館）



開会挨拶（大内田代表理事）



第一部：講演（19:10～20:10）

講演（鶴田浩一郎氏）



参加者の様子



第二部：グループワーク（20:20～21:30）

グループワーク説明



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



グループワーク発表状況



講師への質問

